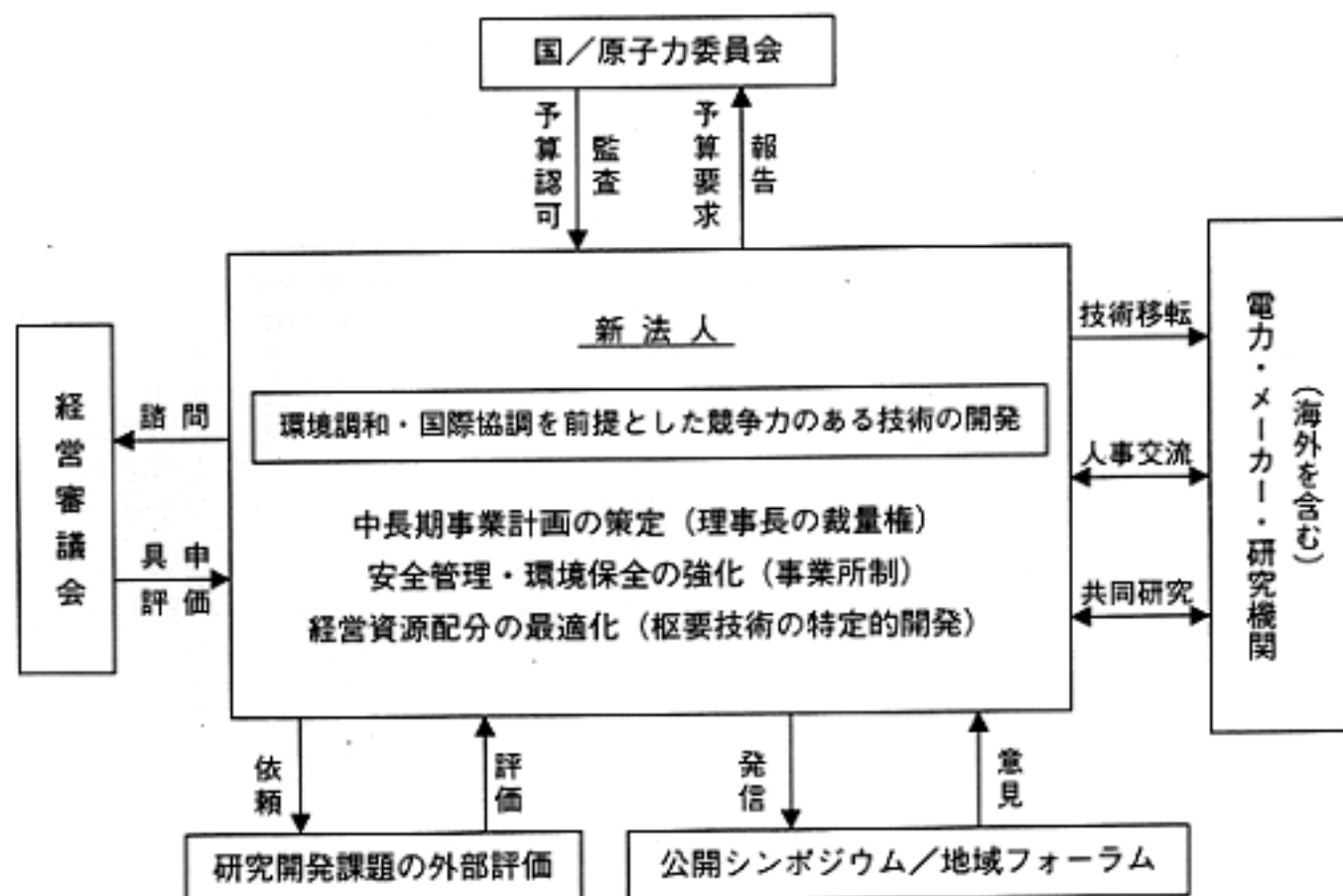


改革案の作成に当たっての基本的枠組み

目的： 事故原因の本質的除去・国民の負託の実現・異種空間の統合（サイクル全体の俯瞰／開発段階間の連携）・状況の変化への対応（コスト意識／リストラ）を可能にする経営とその自己組織化（組織としての使命の発信→組織運営の透明性）



動燃改革検討委員会報告書を受けた作業部会の検討内容

経営の不在の詳細	1. 安全確保と危機管理 ・安全確保への資源配分 ・情報伝達体制の整備 ・一般防災の強化 ・研究開発部門と施設管理部門の役割分担	・安全推進本部/安全管理部・課/安全対策強化特別経費 ・情報交流部/危機管理推進室/地域交流課 ・安全推進本部/データベース化/危機管理推進室 ・教質本部/事業所制/経営企画本部
	2. 閉鎖性 ・社会への感受性の維持 ・組織としての使命の発信 ・事故情報の公開・保存・伝達	・経営審議会/経営企画本部/情報交流部 ・公開シンポジウム/地域フォーラム/外部評価 ・経営企画本部/危機管理推進室/情報交流部
	3. 事業の肥大化 ・強力な経営による「リストラ」 ・スクラップアンドビルド	・合理化目標の設定/中長期事業計画の策定/外部評価 ・レベル0,4の整理縮小/計画の適時見直し
改革のデザインの基本	1. 新組織の目標 ・競争力をもつエネルギー源としての核燃料サイクルを実現	・開かれた研究開発体制/資源の最適配分/枢要技術の特定の開発
	2. 最適な構成 ・動燃に蓄積された技術ノウハウと国の内外から入手可能な資源	・人材・ノウハウ・技術・施設の最大活用/外部との共同研究の積極的推進
新組織に想定される体制	1. 開発領域の限定 ・開発レベルによる分類 ・開発推進の方向付け：サイクルの俯瞰	・レベル1,2,3に限定/それぞれをレベル2,3,4にレベルアップ ・環境調和と国際協調/高速炉及び関連サイクルとサイクル廃棄物環境保全
	2. 安全確保と危機管理体制 ・運転管理部門の重視 ・品質保証の考え方の徹底 ・事故原因の把握と分析、安全対策への反映 ・地域連携・緊急医療を含む危機管理体制の整備	・権限の一元化/運転部門の強化/職員を中心とした責任の明確化 ・業務品質保証活動の推進/事業所部門によるISO9000等の認証の取得 ・安全推進本部/安全支援部門の強化/環境保全の充実 ・危機管理推進室/情報交流部/地域交流課
	3. 社会に開かれた体制 ・地元との共生/広報体制の充実 ・情報公開の徹底/事故報告の強制 ・民間との人事交流/特定の研究者制度の導入 ・国際共同研究の企画/世界的視座化	・本社移転/教質本部/情報交流部/地域フォーラム/問い合わせ窓口 ・情報交流部/危機管理推進室/データベース化/インターネット ・外部との人事交流計画の策定/任期付き研究者制度の導入 ・国際協力センター/安全管理・危機管理の国際的情報交換/核不拡散協力
	4. 専門性の均衡と研究者の拡がり ・広い分野の人材の均衡的配置 ・大学における原子力研究の活性化	・人事計画の策定/外部との人事交流の推進 ・協同プロジェクトの推進/任期付任用による短期研究員制度の充実

動燃改革検討委員会報告書の主要点

第1部「改革の基本認識」に述べられている主要点

1. 事故原因の本質的除去
2. 国民の負託の意味とその重要性の認識
3. 取り巻く情勢の変化の認識
4. 原子炉と核燃料サイクルという異種領域の統合
5. 研究・開発・実用化の異種段階間の有機的連携
6. 安全確保・危機管理・社会性の自立システム化
7. 「競争力のある技術」の開発
8. 一般産業分野の技術進歩の導入
9. 経営の不在

第2部 第1章2.「経営の不在の詳細」に述べられている主要点

1. 安全確保と危機管理
 - ・安全確保への資源配分の充実
 - ・情報伝達体制の整備
 - ・研究開発部門と施設管理部門の役割分担の明確化
2. 閉鎖性
 - ・社会的要請などへの感受性の維持
 - ・不遜の自己評価と適正な外部評価による「組織としての使命」の発信
 - ・事故による重要情報を散逸させない経営
3. 事業の肥大化
 - ・強力な経営による「リストラ」
 - ・スクラップアンドビルドが基本

第2部 第2章1.「(改革の)デザインの基本」に述べられている主要点

1. 新組織の目標
 - ・必要な安全確保を条件として、競争力をもつエネルギー源としての閉じた核燃料サイクルをできるだけ速やかに実現
2. 最適な構成
 - ・「動燃に蓄積された技術及びノウハウ」と「国の内外から入手可能な資源」

第2部 第2章3.「新組織に想定される体制」に述べられている主要点

1. 開発領域の限定
 - ・開発レベルによる分類：レベル1、2、3に限定
 - ・開発推進の方向づけ：サイクル全体の俯瞰
2. 安全確保と危機管理の体制
 - ・運転管理部門の重視
 - ・品質保証の考え方の徹底
 - ・事故原因の把握と分析、安全対策への反映
 - ・地域連携・緊急医療などを含む危機管理体制の整備
3. 社会に開かれた体制
 - ・地元との共生／広報体制の充実
 - ・情報公開の徹底／事故報告の強制
 - ・民間との人事交流／特定の研究者制度の導入
 - ・国際共同研究の企画／世界的拠点化
4. 専門性の均衡と研究者の拡がり
 - ・広い専門分野の人材の均衡的配置
 - ・人材の裾野の拡大／大学における原子力研究の活性化